

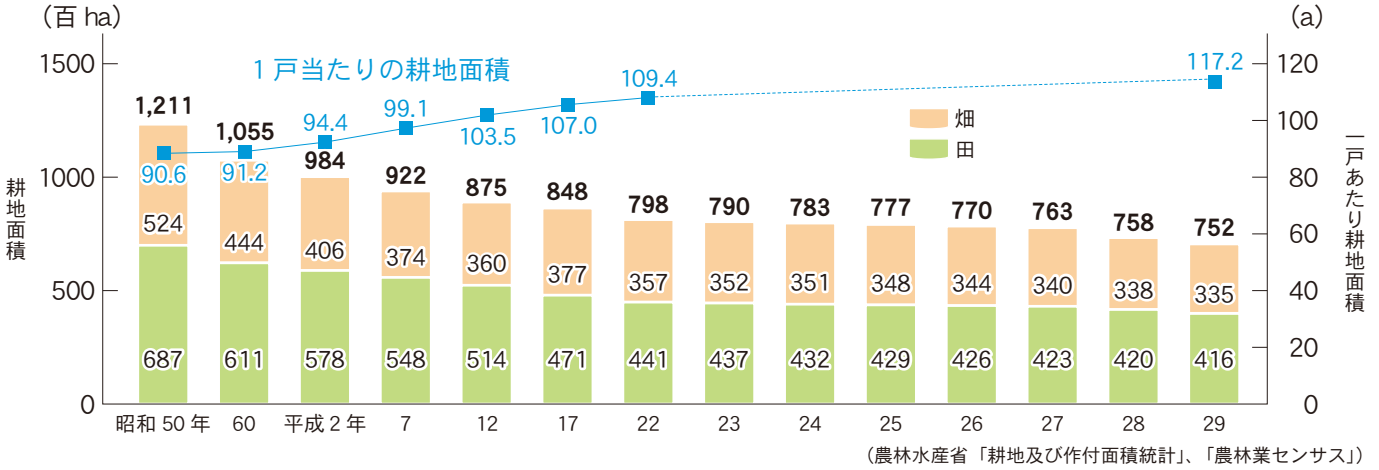
3

埼玉農林業の構造

◆ 農 業

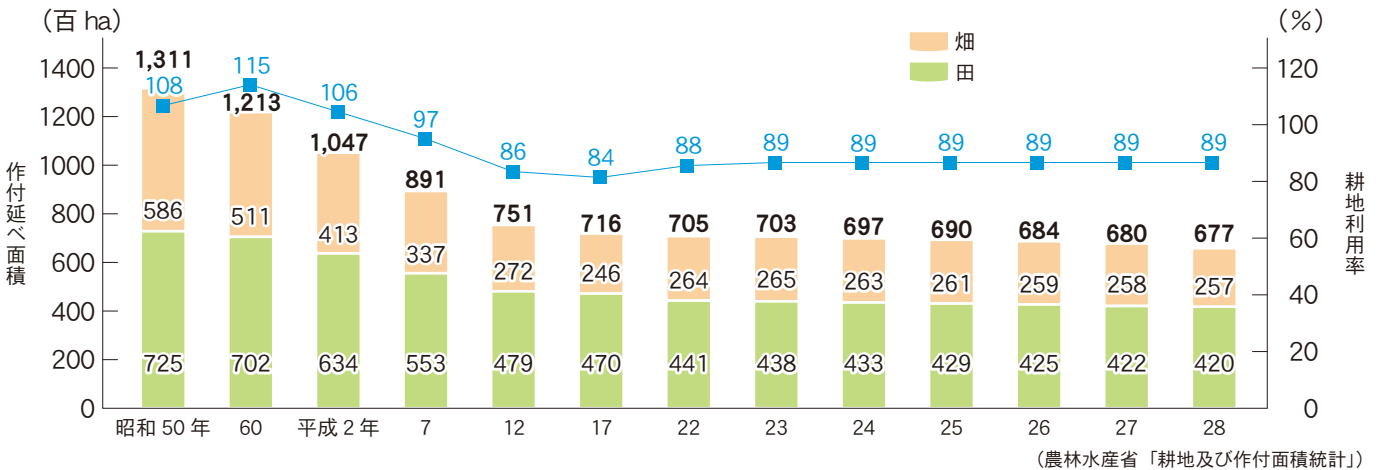
- 耕地面積は 75,200ha（田が 41,600ha、畑が 33,500ha）。
- 耕地率（県土面積に占める耕地面積の割合）は、19.8%で全国第 4 位。

耕地面積の推移



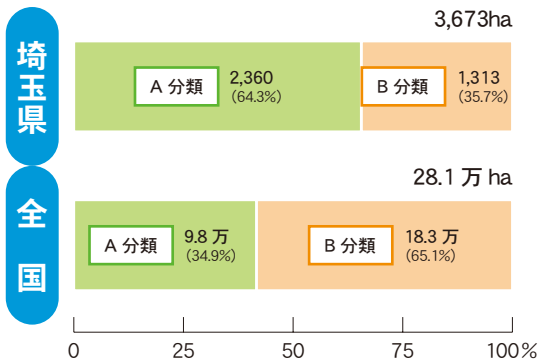
- 作付延べ面積は 67,700ha（田が 42,000ha、畑が 25,700ha）。
- 耕地利用率は 89%でほぼ横ばい。

作付延べ面積と耕地利用率の推移



- 荒廃農地面積は 3,673ha

荒廃農地面積（平成 28 年）

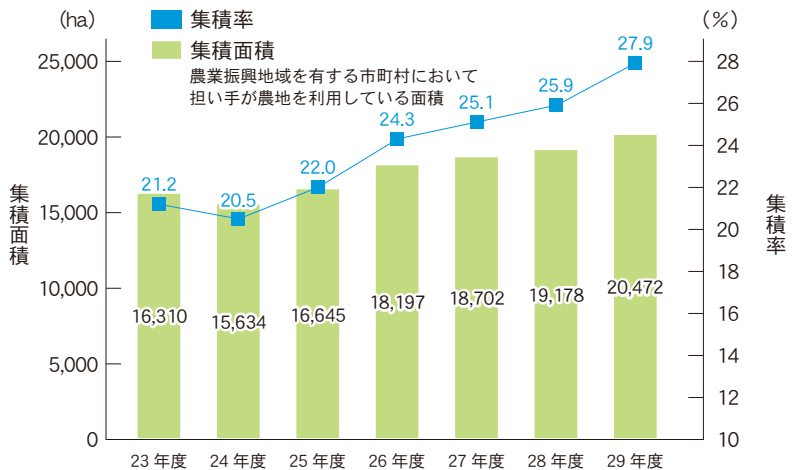


- A 分類 再生利用が可能な荒廃農地
- B 分類 再生利用が困難と見込まれる荒廃農地

(農林水産省「荒廃農地の発生・解消状況に関する調査（平成 28 年）」)

- 担い手の農地利用集積面積は 20,472ha

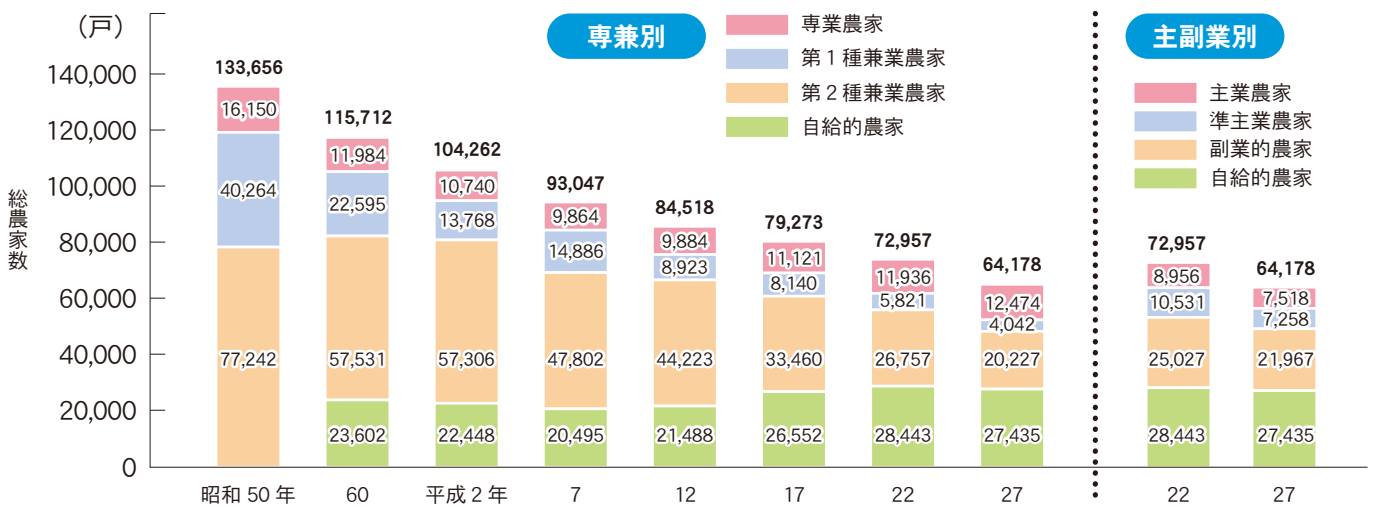
農地利用集積面積の推移



◆ 農 家

● 総農家数は 64,178 戸。

総農家数の推移

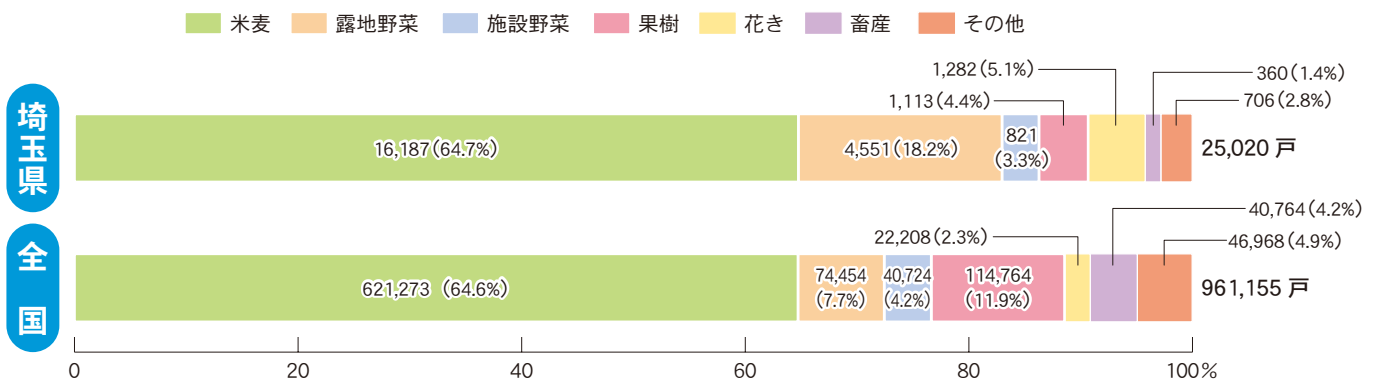


* 専業農家……世帯員中に兼業従事者が一人もいない農家。
 * 第1種兼業農家……農業所得を主とする兼業農家。
 * 第2種兼業農家……農業所得を従とする兼業農家。
 * 主業農家……農業所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の世帯員がいる農家。

* 準主業農家……農外所得が主で、65歳未満の農業従事60日以上の世帯員がいる農家。
 * 副業的農家……65歳未満の農業従事60日以上の世帯員がいない農家。
 * 自給的農家……経営耕地面積が30a未満で、農産物販売金額が50万円未満の農家。

● 経営部門別の販売農家数（単一経営）は、全国に比べて野菜、花き部門が多い。

経営部門別販売農家数（単一経営）（平成27年）

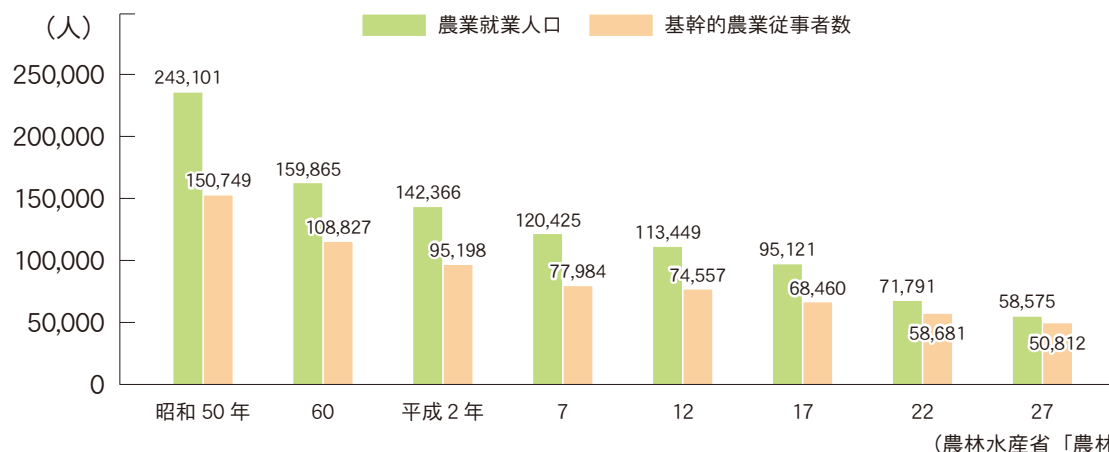


(注) 販売農家（経営耕地面積30a以上または農産物販売金額50万円以上の農家）のうち実際に販売があった農家。（農林水産省「農林業センサス」）

◆ 農業労働力

● 農業就業人口は 58,575 人。（20年間で約 50%減少） ● 基幹的農業従事者数は 50,812 人。（20年間で約 35%減少）

農業就業人口・基幹的農業従事者数の推移



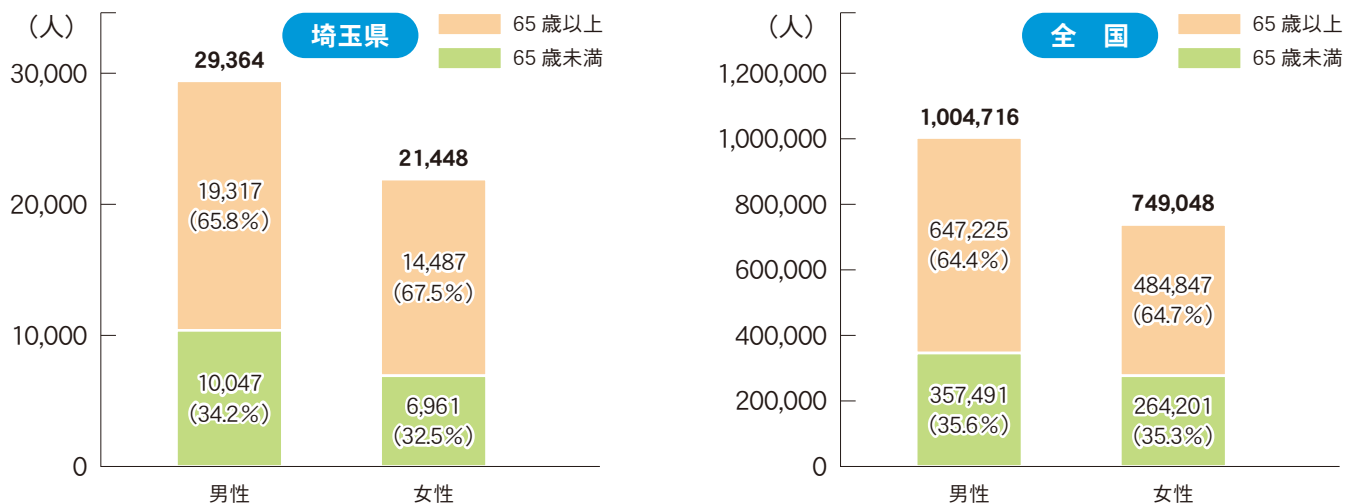
* 農業就業人口
 15歳以上の世帯員で、「農業のみに従事した者」と「農業とその他の仕事に従事したが農業の従事日数の方が多い者」の合計。

* 基幹的農業従事者
 農業に主として従事した世帯員のうち、調査期日前1年間の普段の主な状態が仕事（農業）の者。

（農林水産省「農林業センサス」）

● 基幹的農業従事者の約 65% が 65 歳以上。

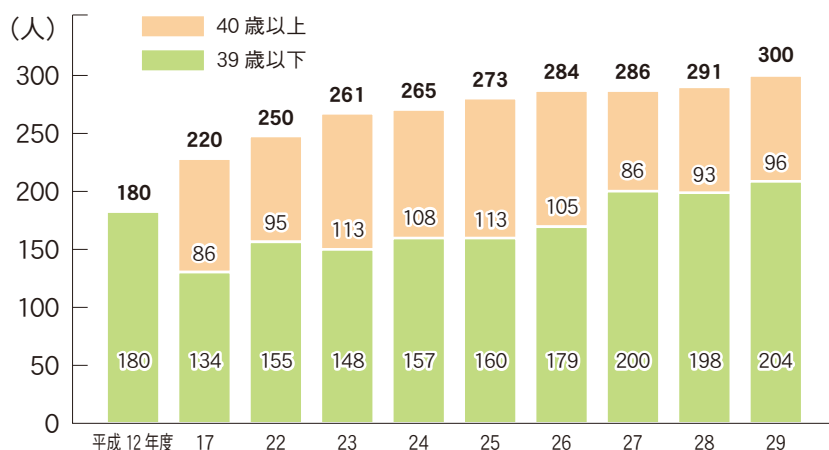
基幹的農業従事者数の性別・年齢別構成（平成 27 年）



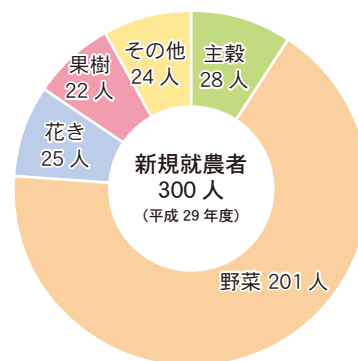
(農林水産省「農林業センサス」)

埼玉農業の担い手の推移

新規就農者数の推移

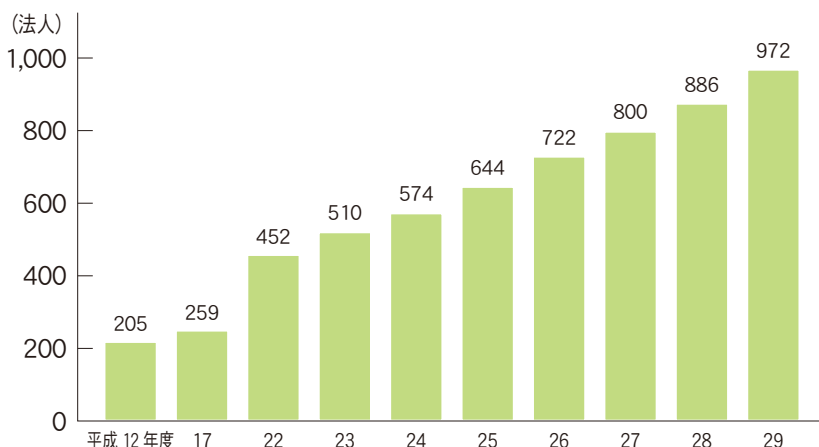


新規就農者の経営類型

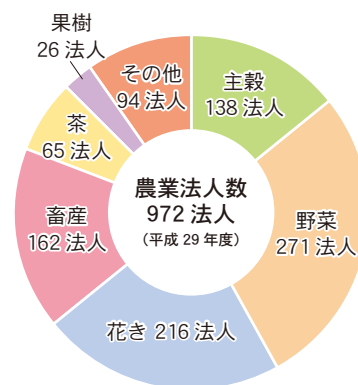


* 調査は、9月～8月の1年間

農業法人数の推移



農業法人の経営類型

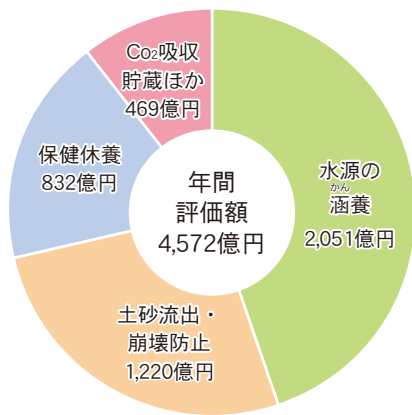


(県農業支援課調べ)

◆森林の現況

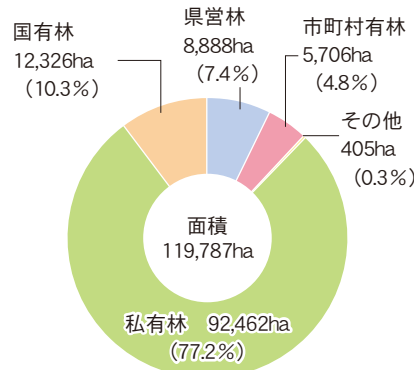
- 森林は県土面積の約 1 / 3。
- 森林は水源の涵養、土砂災害の防止、二酸化炭素の吸収・貯蔵機能など多様な機能を持っています。
- 森林の所有形態別では私有林が約 8 割を占め、種類別では約 1 / 2 がスギ・ヒノキを中心とした人工林。

県内森林の公益的評価額

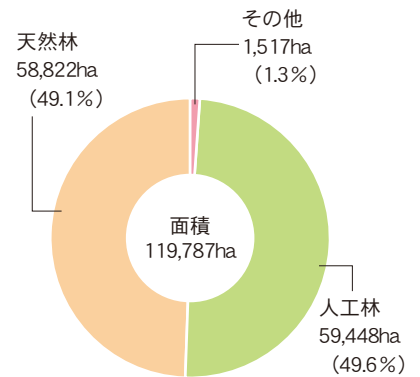


埼玉県の森林面積（平成 29 年）

所有形態別



林種別

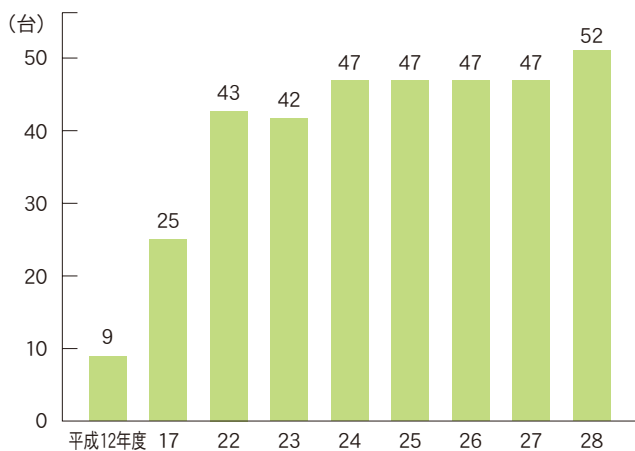


(県森づくり課調べ 林種別面積は推計値)

◆森林・林業・木材産業の取組

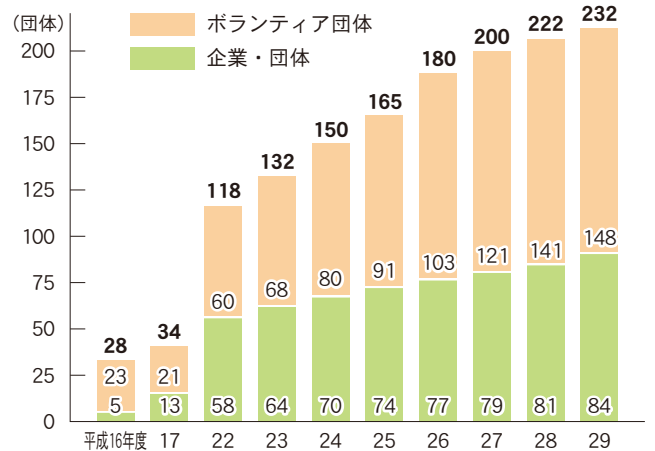
- 路網の整備、高性能林業機械の導入、低コスト造林などを促進し、林業の採算性向上に努めています。
- 植栽や間伐などの森林ボランティア活動に参加する企業や団体が増えてきています。
- 県産木材の供給量は平成 13 年度以降増加しており、平成 28 年度は 8 万 8 千 m³となっています。

高性能林業機械の導入台数



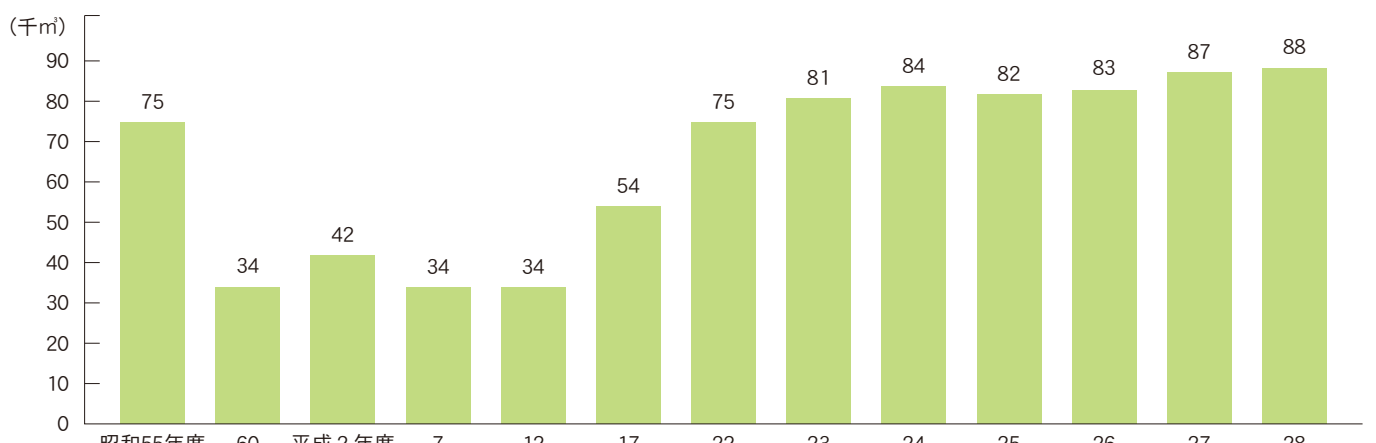
(県森づくり課調べ)

森林ボランティア活動に参加する企業・団体数



(県森づくり課調べ)

県産木材供給量の推移



(県森づくり課調べ)